

健康づくりと生涯現役社会を考える首長懇談会

小川洋・福岡県知事



高齢者と会社 マツチング

高齢者の7割の方が働き続けたいと考えている。そうした希望に沿うため、能力や体力に応じて、働いたりできる社会を目指している。支えられる側とされた高齢者が、支える側として活躍する社会だ。

毎日1万歩で医療費減

日本の生産年齢人口のピクが1995年で、それ以降1000万人減った。高齢者に社会を担つてもらうことが極めて重要だが、高齢化社会は暗く受け止められている。約40年前は12、13人で1人の高齢者を支える胸上げ型、約5年前から

リハビリ体操指導者養成

護予防に活用している「シルバーリハビリ体操」を紹介する。特別な器具なしで、いつでもどこでも一人でできる。脳卒中で半身まひになつた人のリハビリを基にしたものや、筋力や柔軟性を高める体操があり、日常

上田清司・埼玉県知事



橋本昌・茨城県知事



三村申吾・青森県知事



減塩・無煙で「短命」返上へ

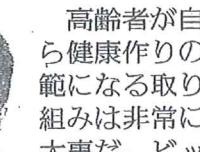
青森県は全国の短命県で、働き盛りの死亡率が高い。全国一の長寿県である長野県に比べると、この世代の死亡率に大きな開きがある。生産年齢人口の死亡率を下げることが平均寿命を延ばし、成長につながると考える。

年重ねても元気

「健康づくりと生涯現役社会を考える首長懇談会」が2日、東京都千代田区で開かれた。健康寿命の延伸や高齢者の社会参加を目指すため、経済団体や医療団体、研究機関などで組織した日本健康会議が主催し、自治体関係者ら約150人が参加した。青森、茨城、埼玉、福岡4県の知事と、新潟県見附市、愛知県犬山市、滋賀県栗東市、三重県名張市の4市長が、それぞれの自治体で取り組む先進的な事例を紹介した。

ビッグデータ活用進め
る

加藤・1億総活躍相



高齢者が自ら健康作りになる取り組みは非常に大事だ

14年前に市長になった頃は、健康施策に理解を得られなかつた。健康教室に参加する人としない人では、医療費が年間10万円以上も違つことを示したが、それでも参加してくれない。

そこで、住んでいるだけで健康になる大胆な施策を実行する人としているだけではない。そこで、住んでいるだけで健康になる大胆な施策を実行する人としているだけではない。



久住時男・新潟県見附市長

14年前に市長になった頃は、健康施策に理解を得られなかつた。健康教室に参加する人としない人では、医療費が年間10万円以上も違つことを示したが、それでも参加してくれない。

そこで、住んでいるだけで健康になる大胆な施策を実行する人としているだけではない。そこで、住んでいるだけで健康になる大胆な施策を実行する人としているだけではない。



久住時男・新潟県見附市長

地域団体の自主性促す

亀井利克・三重県名張市長



老い方学ぶ「100歳大学」

野村昌弘・滋賀県栗東市長

新たな働き方を創り出すことで健康寿命を延ばし、健康で豊かな老後を目指す「栗東100歳大学」について紹介したい。

今年度、高齢者の居場所作りや学童保育、城下町の物販などをシルバー人材センターに担つてもらい、活性化している。

国宝・犬山城があり、歴史と文化、自然に恵まれた個性豊かな街だ。市民が活躍する舞台は豊富な街だと自負している。

そこで、住んでいるだけで健康になる大胆な施策を実行する人としているだけではない。

そこで、住んでいるだけで健康になる大胆な施策を実行する人としているだけではない。



久住時男・新潟県見附市長

人が集まる施設を市街地に集約し、拠点間を結ぶバスを走らせた。郊外の集落と市街地を結ぶ公共交通を作つた。拠点施設の利用者は増えている。市民が歩きやすい仕組みを作る3点を掲げた。

行つ」とした。車に乗れなくなつても外に出て人に会いやすいように、①行きたくなるような場を作る②公共交通を整備する③町中で歩きやすい仕組みを作る

地域団体や目的別団体の自発的な取り組みが発展している。例えば「まちじゅう元気プロジェクト」は、各

地域から若い世代の人を集めてもらい、健康作りや介護予防の講習を受講後、地域に還元してもらう。また、地域への補助金を全廻し、住民組織の地域づくり委員会に交付金を出して、自己責任で事業を実施してもらつようとしている。

平均より低く、医療費も介護給付費も抑えられていくと言える。

地域団体や目的別団体の自発的な取り組みが発展している。例えば「まちじゅう元気プロジェクト」は、各

地域から若い世代の人を集めてもらい、健康作りや介護予防の講習を受講後、地域に還元してもらう。また、地域への補助金を全廻し、住民組織の地域づくり委員会に交付金を出して、自己責任で事業を実施してもらつようとしている。

人が集まる施設を市街地に集約し、拠点間を結ぶバスを走らせた。郊外の集落と市街地を結ぶ公共交通を作つた。拠点施設の利用者は増えている。市民が歩きやすい仕組みを作る3点を掲げた。

行つ」とした。車に乗れなくなつても外に出て人に会いやすいように、①行き